

令和4年度 国語「現代文B」シラバス

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科 2年 1組～6組
教科書	高等学校 現代文B (三省堂)	副教材等	新訂総合国語便覧 (第一学習社) 国語辞典

1 学習の到達目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	評論	「『市民』のイメージ」 (日野啓三)	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の基本的な読み方を習得する。 ・筆者の考える「市民社会」のあり方を理解した上で、その現代的な意味について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析 	
	5	小説	「山月記」 (中島敦)	<ul style="list-style-type: none"> ・小説の基本的な読み方を習得する。 ・すぐれた短編小説の持つ緻密な構成や文体を読み味わう。 ・主人公の性格や生き方を読み取り、それを自己の問題として適応できるよう、思索を深める姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・指名音読 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析 	
			第1回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・考査得点 	
	6	評論	「ミロのヴィーナス」 (清岡卓行)	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の基本的な読み方を習得する。 ・着眼点の鋭さによって、よく知られた具体的な事例が抽象的な思索に深められているおもしろさを味わう。 ・筆者の考えを参考にして、人間にとって「手」とはどのようなものであるかについて考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析 	
	7	評論	「人類による環境への影響」 (鷲谷いづみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の基本的な読み方を習得する。 ・筆者の考える「共生型戦略」と「征服型戦略」について正しく読み取る。 ・筆者の考えを参考にして、生態系への関わり方について考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析 	
			詩歌	「パンの話」他 (吉原幸子 他)	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の音読や鑑賞を通して名作に親しむ。 ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・指名音読 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析
				大きなるー短歌16首 (北原白秋 他)	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌を読み味わい、そこに描かれている情景や作者の心理を読み取る。 ・短歌の文学史を学び、歌人の立場や活動について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析
			第2回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・考査得点 	
	9	小説	「こころ」 (夏目漱石)	<ul style="list-style-type: none"> ・小説の主題や寓意を読み取り、優れた人間批評の在り方や、小説が成立する背景について考える。 ・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。 ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てる。 ・小説に描かれた人間の心理をじっくりと読み込む。 ・筆者の文学史的事項を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・指名音読 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析 	
	学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等

後期	10	評論	「病と科学」 (柳澤桂子)	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の読み方に習熟する。 ・文章の構成に注意しながら、人間が「科学」とどのように向き合うべきかについて、筆者の考えを正しく読み取る。 ・筆者の考えを参考にして、人間と「科学」の向き合い方について考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析
			「ロゴスと言葉」 (丸山圭三郎)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロゴス」という概念を理解する。 ・文中の具体例が何を説明するためのものなのかを読み取り、筆者の考える言葉の本質について正しく理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析
			第3回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・考査得点
後期	11	評論	「スポーツとナショナリズム」 (阿部潔)	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の読み方に習熟する。 ・「スポーツ」における「ナショナリズム」のあり方について、筆者の意見を通じて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析
		12	小説	「夏の花」 (原民喜)	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」の〈手記〉という表現形式を踏まえ、主人公の心理の変化を正確に読み取る。 ・すぐれた短編小説の持つ緻密な構成や文体を読み味わう。
		表現と実用の文章	「情報の読み方・扱い方」	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料の読み方を学び、それをふまえた自分の考えをわかりやすく整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析
		第4回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・考査得点 	
	1	小説	「ひよこの眼」 (山田詠美)	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の特色に注目することで内容を深く理解する。 ・登場人物の心情を理解しながら「ひよこの眼」という題名に込められた意味について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析
2	評論	「南の貧困／北の貧困」 (見田宗介)	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の読み方に習熟する。 ・「南の貧困」と「北の貧困」の構造について理解する。 ・筆者の論理展開を踏まえ、「豊かさ」について考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・提出物、レポート等分析 	
3		第5回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・考査得点 	

3 評価の観点

関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

4 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」の5観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

国語総合の現代文分野の内容をさらに発展させ、読む力を高めるとともに、読んだことをもとにして進んで発表できるようにしましょう。また、授業だけではなく家庭内においても読書対象を広げ、新聞など様々な文章に日々接することで視野を広げましょう。授業では積極的な授業態度を心掛けるとともに辞書や副教材を有効に活用し予習・復習の習慣を身につけましょう。提出物は期限を守って必ず提出しましょう。

令和4年度 国語 「古典B」シラバス

単位数	3単位	学科・年次・学級	普通科 2年 1～6組
教科書	高等学校古典B古文編〔改訂版〕 (三省堂) 高等学校古典B漢文編〔改訂版〕 (三省堂)	副教材等	新訂総合国語便覧(第一学習社) 完全マスター古典文法(第一学習社) 古文単語テキスト・古語辞典・漢和辞典

1 学習の到達目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	古文 説話 (一)	『宇治拾遺物語』 「小野篁広才」 『十訓抄』 「安養尼上小袖」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や表現に即して、展開を読み取る。 ・ 文章を通して、登場人物の行動や心情を読み取る。 ・ 人物関係を踏まえ、敬語法の基本について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発問評価 ・ 指名音読 ・ 課題評価 	
		古文 随筆 (一)	『枕草子』 「九月ばかり」「すさまじきもの」「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随筆を読んで、作者の美意識や機知を読み取る。 ・ 内容を踏まえて筆者の考え方や当時の宮廷生活や人間関係を理解する。 ・ 基本的古語の意味を覚えると共に、形のうえで紛らわしい語を文法的に識別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発問評価 ・ 指名音読 ・ 課題評価 	
	5	漢文 小話	「漱石枕流」 「畏饅頭」他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的短い文章を読んで漢文に親しみを持つ。 ・ 故事や寓話に込められた古代中国人のものの見方、考え方を味わう。 ・ 基本的な句法・語法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発問評価 ・ 指名音読 ・ 課題評価 	
			第1回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査得点 	
	6	古文 物語 (一)	『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」 『伊勢物語』 「初冠」他 『大和物語』 「姨捨」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・ 敬語について用法、種類、敬意を理解する。 ・ 物語における和歌の役割、効果を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発問評価 ・ 指名音読 ・ 課題評価 	
		漢文 漢詩	「鹿柴」「秋浦歌」他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢詩の表現の美しさを味わう。 ・ 詩に表現された作者の心情を、そのときの作者の境遇と合わせて理解する。 ・ 漢詩(近体詩)のきまりについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発問評価 ・ 指名音読 ・ 課題評価 	
	7	古文 随筆 (二)	『徒然草』 「あだし野の露」「家居のつきづきしく」 『方丈記』 「ゆく河の流れ」他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を踏まえて筆者の人生観や人間観、無常観を読み取る。 ・ 内容を踏まえて当時の社会状況を理解する。 ・ 基本的古語の意味を覚えると共に、形のうえで紛らわしい語を文法的に識別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発問評価 ・ 指名音読 ・ ノート、課題評価 	
			第2回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査得点 	
	8	9	古文 物語 (二)	『源氏物語』 「光源氏の誕生」「北山の垣間見」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長編物語や歴史物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・ 源氏物語について、物語の特徴と歴史的意義を理解する。 ・ 敬語について理解し、口語訳に適切にいかす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発問評価 ・ 指名音読 ・ 課題評価
	9					
後期	10	漢文 史伝	『史記』 「鴻門之会」「四面楚歌」「項王最期」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長めの文章を読んで、漢文に慣れ親しむ。 ・ 登場人物の行動や心情について、話の展開に沿って的確に読み取る。 ・ 『史記』の文学性と作者司馬遷についての概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発問評価 ・ 指名音読 ・ 課題評価 	
		第3回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査得点 		

後期	11	古文 物語 (三)	『大鏡』 「花山院の出家」他	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・歴史物語について、その物語の特徴を理解する。 ・敬語について理解し、口語訳に適切にいかす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・指名音読 ・課題評価 	
		古文 軍記	『平家物語』 「忠度の都落ち」 「能登殿の最期」	<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・音便や挿入句といった、語り物の特色について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・指名音読 ・課題評価 	
		12	漢文 文章	「魚父之辞」 「春夜宴桃李園序」	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の展開を理解するとともに、文章にこめられた思想や主張を読み取る。 ・基本的な句法・語法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・指名音読 ・課題評価
			第4回考査		・考査得点	
	1	古文 日記	『更級日記』 「あこがれ」他	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を読んで、作者の生活や心情を読み取る。 ・歴史的背景をとらえ、作者の立場を理解することで、その心情を読み取る。 ・平安女流日記文学の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・指名音読 ・課題評価 	
		2	漢文 思想	『論語』『孟子』『荀子』『老子』『荘子』	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の主要な思想である儒家・道家の主張の概要を理解する。 ・簡潔な表現や巧みな比喩に注目しながら、内容的に的確に読み取る。 ・古代中国の思想から、現代に通じるものの見方や考え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・指名音読 ・課題評価
			3	古文 和歌	「和歌十六首」	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の優れた表現に親しむとともに、和歌の響きを味わう。 ・それぞれの修辞技巧や表現上の特色を理解し、そこにこめられた作者の思いを読み取る。 ・和歌の修辞法や和歌史の流れを理解する。
			第5回考査		・考査得点	

3 評価の観点

関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。
読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身につけている。

4 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「読む能力」、「知識・理解」の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

予習を欠かさず、授業時には当日の学習範囲の本文がノートに準備されているようにしておきましょう。また復習では、学習内容を整理して現代語訳、文法、周辺事項などをわかりやすくまとめることが肝要です。さらに文語文法や漢文の句形は継続的、体系的な学習が必要です。
授業時には辞書、便覧、文法のテキストを必ず持参し、積極的に取り組んでください。また提出物は必ず期限内に提出しましょう。

令和4年度 地歴公民科「日本史B」シラバス

単位数	4単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～6組
教科書	詳説世界史（山川出版社）	副教材等	図説 日本史通覧（帝国書院） ゼミナール日本史（浜島書店）

1 学習の到達目標

- 日本の歴史の大きな枠組みと流れを学ぶ。
- 日本の文化と伝統の特色を学ぶ。
- 歴史的な見方・考え方を育成する。
- 国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	近代国家の成立	開国と幕末の動乱 明治維新と富国強兵	○開国に至った背景と倒幕への動きを理解する。 ○明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目し、明治初期の政治的変革を理解する。 ○自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間で近代国家の基盤が形成されていく過程を理解する。 ○開戦に至る国際関係や、戦後の日本の国際的地位の変化を理解する。	
	5		立憲国家の成立と日清戦争 日露戦争と国際関係 近代産業の発展 近代文化の発達 第1回考査		
	6	二つの世界大戦とアジア	第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭 第2回考査	○第一次大戦前後の政治の動向及び対外政策について政党政治の発展や日本の中国進出状況を踏まえて理解する。 ○ワシントン体制に至る国際的協調体制を日本の立場に着目して理解する。また、国内政治の政党内閣成立までの過程を理解する。 ○学問・芸術・出版などの事例を具体的に取り上げ大衆文化の基盤の成立と国民生活の変化を理解する。 ○戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺と対策を国際的な経済状況に着目し理解する。 ○軍部の進出による政党内閣の崩壊や柳条湖事件をきっかけとして日本が国際的に孤立していく過程を理解する	
7	占領下の日本	第二次世界大戦 占領と改革 冷戦の開始と講和	○日中戦争から太平洋戦争の突入に至る過程について理解し、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 ○戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革についての内容を理解する。 ○連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続や冷戦による東アジアの情勢変化を理解する。		
9		高度成長の時代	55年体制 経済復興から高度成長へ 第3回考査	○独立後の日本とアメリカの関係や55年体制が確立する過程を理解する。 ○日本は1955年から爆発的な経済成長を果たしたが、その背景と影響について考察する。	
後期	10	激動する世界と日本	経済大国への道 冷戦の終結と日本社会の動揺	○高度経済成長が終焉した後、二度にわたる石油危機を乗り越え経済大国として歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に理解する。 ○冷戦後の日本の国際的な立場や55年体制の崩壊など国内外の動向を現代社会における問題と関連づけて理解する。	

12	日本文化のあけぼの	文化の始まり 農耕社会の成立	○日本列島における旧石器文化・縄文文化を自然環境の変化や使用された道具に着目して考察する。 ○弥生文化の特徴を稲作の開始という観点から考察・理解する。中国の歴史書から弥生時代の実態を捉え、理解する。	考査得点 ノート提出
1	律令国家の形成	古墳とヤマト政権	○地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容と大王の成立から理解する。大王が氏姓制度という支配体制に基づいて広大な範囲を支配したことを理解する。 ○ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、推古朝を中心とする飛鳥の朝廷の時代を理解する。 ○律令国家が成立するまでの政治の動向を理解する。税制度に焦点をあてて律令制を理解する。	
2		飛鳥の朝廷		
3		律令国家への道		
第5回考査				

3 評価の観点

関心・意欲・態度	○日本史を理解するのに必要な基本的な知識を身につけている。 ○それぞれの時代の特徴について理解している。 ○歴史的な事象や人物に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ○発展的な学習に取り組んでいる。
思考・判断・表現	○考えながら学習活動に取り組み、自分の意見や考えを適切にまとめることが出来る。 ○多様な視点から適切に考察出来る。
資料活用の技能	○歴史の諸資料の収集・活用が出来る。 ○研究・考察した内容を適切に表現することが出来る。
知識・理解	○日本史を理解するのに必要な基本的な知識を身につけている。 ○それぞれの時代の特徴について理解している。

4 評価の方法

評価の4観点（関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解）から総合的に評価します。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

【学習全般】
 中学校で学習した中世以降の歴史についてより深く、学んでいきます。好奇心を旺盛に「知る楽しさ」を持って日本の歴史を学んでいきましょう。中学校時代ではあまり説明されなかった歴史的出来事の社会的背景やそれぞれの時代で活躍した人々の思いなども考えて歴史的な事項の暗記にとどまらない生き生きとした歴史を学んでいきましょう。過去は何らかの形で現在に影響を残しています。現在との関係を考えながら学んでいきましょう。

【アドバイス】
 歴史的な事象について原因・経過・結果・影響というプロセスを常に考慮に入れて、考えながら取り組むことが大切です。歴史は人々の営みの積み重ねです。それぞれの時代の人物を中心にしてそれぞれの時代を再検討すると理解が深まります。様々な視点から歴史をみる姿勢を常に持って、知識の習得を行い自分の考えをまとめられるようにしましょう。

【授業を受けるにあたって守ってほしい事項】
 一時間一時間の授業をノート等に記録するだけで満足することなく、気付いた点や疑問点もまとめるなど工夫を心がけてみましょう。

令和4年度地歴公民科「地理B」シラバス

単位数	4単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～6組 選択者
教科書	新詳地理B（帝国書院）、基本地図帳改訂版（二宮書店）	副教材等	新編地理資料2022（東京法令出版）

1 学習の到達目標

<p>1. 系統地理を通して、現代世界の地理的認識を深めます。</p> <p>2. 地理的な見方・考え方を養い、資料・統計資料の活用や読図・作図の技能を身につけます。</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第Ⅰ部 さまざまな地図 と地理的技術 1章地理情報と 地図	1 地図の発達 2 地図の種類とその利用 3 地理情報の地図化	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動、社会生活におけるGPS、GISの活用を学ぶ。 ・メルカトル図法、正距方位図法の特徴を学ぶ。 ・時差のしくみ、時差の計算を学ぶ。 ・統計地図の見方と作図を学ぶ。 	質疑応答 課題提出 ノート提出
	5		1 地図の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地図記号と地形図の読図技能を学ぶ。 	
	5	2章地図の活用 と地域調査 第Ⅱ部現代世界の 系統地理的考察 1章自然環境	1 世界の地形 2 世界の気候 3 日本の自然の特徴と 人々の生活 第1回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・大地形と分布と地震・火山活動を学ぶ。 ・小地形の分類と分布、地形図から小地形を読図する技能を学ぶ。 ・気候要素と気候因子、気候変動を学ぶ。 ・ケッペンの気候区分と各気候区の特徴・分布を学ぶ。 ・気候と植生・土壌の関連、その分布を学ぶ。 ・プレート境界に位置する日本の地形を学ぶ。 ・モンスーンの影響を受ける日本の気候を学ぶ。 ・自然災害と防災について阪神大震災、東日本大震災、水害を例に学ぶ。 	
6	2章資源と産業	4 環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化、砂漠化、森林破壊を例に環境問題の構造を学ぶ。 ・日本の公害の歴史を学ぶ。 		
7		1 世界の農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の農業地域の特徴・分布を学ぶ。 ・緑の革命、遺伝子組作物等を例に農業と技術の関係を、GATTの交渉を例に農産物貿易の自由化を学ぶ。 ・世界の林業を森林破壊と関連させて学ぶ。 ・世界の水産業を資源の保全、領海問題と関連させて学ぶ。 		
7		2 食料問題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の農林水産業の地域性、貿易自由化との関連を学ぶ。 ・世界の食料問題を踏まえて、日本の食料問題を学ぶ。 		
7		3 世界のエネルギー・鉱産資源 4 資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料のグラフ化・グラフの読み取りの技能を学ぶ。 ・資源の分布と需給の特徴を学ぶ。 ・原子力、再生可能エネルギーの諸課題について欧州と日本を比較考察する。 		
7		第2回考査			
9		5 世界の工業	<ul style="list-style-type: none"> ・先進国、新興国、BRICsの工業の特徴を比較考察する。 ・日本の工業の現状と課題を学ぶ。 		
9		6 第3次産業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の商業を地域格差と関連させて学ぶ。 ・日本の観光業を国際化・異文化理解と関連させて学ぶ。 ・三角グラフの作成・読み取りの技能を学ぶ。 		
9		7 世界を結ぶ交通・通信	<ul style="list-style-type: none"> ・航空、鉄道、自動車、水運を比較考察しそれぞれの特徴を学ぶ。 		
9		8 現代世界の貿易と経済圏	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報社会と地域格差を学ぶ。 ・貿易を通して南北問題・南南問題を考察する。 ・貿易の自由化の現状と問題点をEU・TPPを例に学ぶ。 		

後期	10	3章人口、村落・都市	1 世界の人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題 第3回考査	<ul style="list-style-type: none"> 世界人口の推移と地域差を学ぶ。 人口ピラミッドのグラフの読み取り技能を学ぶ。 インドを例に発展途上国の人口問題の構造を学ぶ。 中国の一人っ子政策を学ぶ。 欧州と日本の人口問題を比較考察を通して、日本の少子高齢化対策について考える。 難民問題の構造と先進国とりわけ日本の責任について考察する。 村落の形態、機能を地形図の読図・作図を通して学ぶ。 東京圏を例に大都市の構造と日本の都市問題、地域格差を考察する。 メキシコやフィリピンを例に発展途上国の都市問題を学ぶ。 ストリートチルドレン、児童労働等の問題を考察する。 ロンドン、パリを例に先進国の都市問題を学ぶ。 コンパクトシティ、地方公共交通機関等の問題を通して南房総の現状と将来像を考察する。 	
後期	11	4章生活文化、民族・宗教	1 生活文化 2 民族と宗教 3 現代世界の国家 4 民族・領土問題 第Ⅲ部現代世界の地誌的考察 1章現代世界の地域区分 2章伝代世界の諸地域 第4回考査	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住の地域性と自然環境・歴史との関連を学ぶ。 生活文化の画一化の問題点を考察する。 外国人が日本文化をどのように評価しているかを考察する。 民族分布、言語分類、主な宗教の特色を学ぶ。 国家の3要素について学ぶ。 竹島、北方領土等の日本の領土問題を考察する。 旧ユーゴ、パレスチナを例に民族問題の背景を考察する。 地域区分の目的を考察する。 地域の構造を多面的に考察する。 中国の人口政策、経済政策を学ぶ。 韓国の工業化、南北分断の歴史を学ぶ。 シンガポール、マレーシアを例に多民族国家の現状を考察する。 東南アジアの工業化とASEANの役割を学ぶ。 モンスーンと人々の生活の関連を学ぶ。 多様な宗教の存在と民族問題を考察する。 インドのIT産業の発展を学ぶ。 	課題提出 質疑応答 ノート提出
	1		4 西アジアと中央アジア 5 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 6 ヨーロッパ 7 ロシア 8 アングロアメリカ 9 ラテンアメリカ 10 オセアニア 第5回考査	<ul style="list-style-type: none"> イスラム社会の特徴を学び、異文化への寛容的態度を考察する。 原油に依存する中東とその世界への影響を考察する。 列強の植民地支配の歴史とそのアフリカへの影響を学ぶ。 アフリカの課題と先進国の援助のあり方を考察する。 EUの歴史と課題を考察する。 ドイツの多文化主義、環境政策について学ぶ。 ソ連の歴史と旧ソ連諸国の現状を学ぶ。 ロシアの資源、軍需産業へ依存した経済を学ぶ。 アメリカの強い経済力と世界への影響力を考察する。 移民社会の課題を先住民、アフリカ系、ヒスパニックを例に考察する。 経済成長と貧困、格差の拡大との関連を考察する。 植民地支配の影響を多民族社会、経済構造を例に考察する。 オーストラリアの多文化主義を考察する。 島しょ国家の地球温暖化の影響を例に、環境問題のグローバル化を考察する。 	

3 評価の観点

関心・意欲・態度	地理的事象や諸課題に関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、疑問点・問題点を把握し、明らかにしようとしている。
思考・判断・表現	地理的事象や諸課題を思考し、内容を要約したり、自分の考えをまとめたり、発表することができる。 異なる考え・意見に耳を傾け、自分の考え・意見の再構築ができる。
資料活用の技能	地図・統計資料・資料・景観写真等の基本的資料を読み取り活用できる。 統計資料を基に作図等ができる
知識・理解	系統的な地理的事象について、基本的な用語・統計資料・分布・因果関係等を理解し、その知識を身につけている

4 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断、資料活用の技能・表現、及び知識・理解の4観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

地理的な見方・考え方は、世界各地域の特徴・変化を資料や統計資料・地図などを使って確認でき、その中に多様性・共通性・規則性を見だし理解することです。これらを通して、多様で変化し続ける国際社会に生きる日本人としての自覚と資質及び異文化への寛容な態度を養うことがこの科目のねらいです。

基本的な用語・地名を理解した上で、事象を思考(どこで、何が、どうして、他地域との関係は、日本との関係・影響は)することを続けて下さい。新聞・ニュース等を通して激動する世界の動向に関心を持ち続けて下さい。

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科・2年次・3～6組（文系）
教科書	詳説世界史B（山川出版社）	副教材等	ダイアログ世界史図表（第一学習社）

1 学習の到達目標

<p>①世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を身につける。</p> <p>②世界の歴史の大きな枠組みと流れを、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解する。</p> <p>③文化の多様性と現代世界の特質を多角的かつ広い視野から考察し、歴史的思考力を培う。</p> <p>④世界史についての資料を適切に選択し、資料に基づいて考察した結果を適切に表現する力を身につける。</p> <p>⑤現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追究を通して認識を深める。</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4		・オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容	・西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向を理解する。	ワークシート 考査成績 ノート提出 レポート課題 発問に対する応答
	5		・南アジア・東南アジアの植民地化	・インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。	
	6	帝国主義とアジアの民族運動	・東アジアの激動	・ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。	
			第1回考査	・帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。	
7		・世界分割と列強対立	・帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。		
9	二つの世界大戦	・アジア諸国の改革と民族運動	・欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	第2回考査	
後期	10	二つの世界大戦（継続）	・第一次世界大戦とロシア革命	・第一次世界大戦勃発の経緯、戦時外交と総力戦の性格について、関心を持って学習しようとしている。	ワークシート 考査成績
	11		・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	・国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。	
後期	12	冷戦と第三世界の独立	・アジア・アフリカ地域の民族運動	・中国や東南アジア諸国、インド、トルコや西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を理解する。	ワークシート 考査成績
	12		第3回考査	・世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から、国際的な緊張が高まる時代を理解する	
	1	冷戦と第三世界の独立（継続）	・第二次世界大戦	・第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。	
			・戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	・第二次世界大戦後、米・ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する	
			第4回考査	・中華人民共和国の成立や朝鮮の分断、アジア諸地域の独立の過程を理解する。	
			・戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立（継続）	・朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。	
			・米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興		

2	<ul style="list-style-type: none"> ・第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り ・石油危機と世界経済の再編 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解する。 ・米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解する。 ・ドル＝ショック、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。 	ノート提出 レポート課題 発問に対する応答
3 現在の社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会主義世界の変容とグローバル化の進展 ・途上国の民主化と独裁政権の動揺 ・地域紛争の激化と深刻化する貧困 ・現代文明の諸相 	<ul style="list-style-type: none"> ・東欧社会主義圏の消滅、ソ連邦の解体と民族紛争、グローバル経済の進展を理解する。 ・途上国の民主化の進展と、アジア社会主義国家の変容を理解する。 ・世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。 ・情報技術・科学技術の発達と現代文明の抱える危機、現代思想や文化の特徴について理解する。 	
第5回考査			

3 評価の観点

関心・意欲・態度	世界の近現代の歴史に対する関心を持ち、文化の多様性と現代世界の特質、現代世界の諸課題について主体的・意欲的に追究している。
思考・判断・表現	世界各地の諸事象について、時間的なつながりや空間的なつながりに着目して思考し、考察・判断した過程や結果を適切に表現することができる。
資料活用の技能	年表や歴史地図、模式図などの世界史についての諸資料を、客観性や公正さにも配慮した上で適切に取捨選択して活用する。
知識・理解	世界の近現代の歴史についての知識を、時間的なつながりや空間的なつながりに着目して整理し、歴史の大きな枠組みと流れの中に適切に位置づけ、理解している。

4 評価の方法

① 定期考査 ② 授業中に実施するワークシート・白地図への取組状況 ③ 授業に対する取組状況 以上を資料とし、関心・意欲・態度、思考・判断、資料活用の技能・表現、及び知識・理解の4観点から総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<p>【授業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年での世界史Aの内容を前提として授業を展開します。分からないことについては、復習をしておくことをおすすめします。 ・教科書として「詳説世界史B」を利用します。大学受験で世界史を利用することを検討している人や、世界史に興味が出てきた人は、積極的に前後（特に古代～中世史）について、教科書を読んで勉強をしてみましょう。きっと新たな世界が拓けるはずです。 <p>【世界史について】</p> <p>主に20世紀～21世紀の世界について、歴史的な視座より検討します。歴史家のE. ホブズボームは20世紀を指して『短い20世紀』と表現しました。1901年の世界には清朝やロシア帝国が存在しましたが、2000年の世界にはEUがありました。江戸時代（257年間）の半分以下の長さですが、学ぶべき・知るべき事項は多いはずです。「歴史は現代との対話」とも言います。深く思考してくれることを期待します。</p>
--

単位数	4単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～6組
教科書	数学Ⅱ Advanced (東京書籍)	副教材等	PRIME 数学Ⅱ+B (東京書籍)

1 学習の到達目標

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章 方程式・式と証明 [18]	1節 整式の乗法・除法と分数式 2節 2次方程式 1 複素数とその演算 2 解の公式 3 解と係数の関係(3) 問題(1) 3節 高次方程式 1 因数定理(2) 2 簡単な高次方程式(2) 問題(1) 4節 式と証明 1 恒等式(3) 2 不等式の証明(4) 問題(1) 練習問題(1) 1節 点と直線 1 2点間の距離(1) 2 内分点・外分点(2) 第1回考査	◇2次方程式がつねに2つの解をもつことや解をもつように解の範囲を実数から複素数の範囲まで拡張することに興味をもち，その意義を知る。 ◇解が判別式の符号によって分類できることを理解する。 ◇判別式や解と方程式の係数の関係に興味をもち，理解して，式の見方・考え方を深める。 ◇剰余の定理と因数定理の意義について理解する。 ◇複2次式や因数定理による高次方程式の解法を知る。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
	5		◇恒等式について理解し，等式の証明を行うなど論証に活用できる。 ◇恒等式の基本性質を用いて式の証明を行うなど，論証についての理解を深める。また，不等式の証明における様々な手法を理解し，利用できる。 ◇2点間の距離を求めることができ，三角形などの平面図形に活用できる。 ◇内分点・外分点と座標の関係の理解を深め，三角形などの平面図形の性質や関係を調べることができる。		
	6	2章 図形と方程式[26]	3 直線の方程式(2) 4 2直線の関係(4) 問題(1) 2節 円 1 円の方程式(2) 2 円と直線(3) 3 2つの円(2) 問題(1) 3節 軌跡と領域 1 軌跡の方程式(2) 2 不等式の表す領域(1) 3 連立不等式の表す領域(3) 問題(1) 練習問題(1) 第2回考査	◇直線が1次方程式で表されることなど図形とその方程式の関係を理解する。 ◇2 直線の位置関係を調べ，直線図形の解析的な考察ができる。 ◇円がx, yの2次式の方程式で表されることを理解し，円についての理解を深める。 ◇円と直線の位置関係が2次方程式の判別式によって調べられることに興味をもち，それを理解するとともに，接線の方程式などに活用できる。 ◇2つの円の位置関係について理解し，2つの円の共有点と円の方程式の関係について考察できる。 ◇直線や円を，条件を満たす点の集合として理解し，軌跡の方程式を求めることができる。 ◇不等式を満たす直線や円の領域を求めることができる。 ◇いくつかの不等式で表される領域が平面の一部であることや領域が不等式で表されることを理解し，図形への考察を深める。また，領域と最大値・最小値の求め方を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
7	◇円比から三角関数への準備として一般角および弧度法を学習し，扇形の弧の長さや面積を求めて活用することができる。 ◇単位円を利用して，三角関数の基本的な性質を理解する。 ◇三角関数の相互関係の公式を用いて，三角関数についての理解を深める。 ◇三角関数をもつ周期性や対称性などに気づき，グラフをかくことができる。 ◇三角関数を含む方程式や不等式について，解法を理解する。				
9	3章 三角関数[22]	1節 三角関数 1 一般角(1) 2 三角関数(2) 3 三角関数の性質(3) 4 三角関数のグラフ(3) 5 三角関数の応用(3) 問題(1)	◇三角関数の加法定理の証明を認識し，15°，75°，105°などの三角関数の値を求めることができる。 ◇加法定理から2倍角の公式や半角の公式を導き，利用できる。 ◇三角関数の合成について理解し，関数の最大・最小の問題などに活用できる。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査	
後期	10	2節 加法定理 1 加法定理(3) 2 加法定理の応用(2) 3 三角関数の合成(2) 問題(1) 練習問題(1) 第3回考査			

後期	11	4章 指数関数・ 対数関数[17]	1節 指数関数 1 指数法則(1) 2 累乗根(1) 3 指数の拡張(1) 4 指数関数とそのグラフ(3) 問題(1) 2節 対数関数 1 対数とその性質(3) 2 対数関数とそのグラフ(3) 3 常用対数(2) 問題(1) 練習問題(1)	◇指数の拡張に興味をもち、指数を正の整数から整数に拡張したときも、指数法則が成り立つことを理解する。 ◇累乗根の意味を理解し、簡単な計算ができる。 ◇指数を整数から有理数に拡張したときも、指数法則が成り立つことを学び、指数に関する理解を深める。 ◇指数関数のグラフの特徴と性質を理解する。指数関数のグラフを利用して、方程式や不等式を解くことができる。 ◇図数関数を指数関数のグラフを使って視覚的に認識し、対数のよさを理解する。 ◇指数関数の性質と関連づけながら、対数関数の性質について理解を深め、そのグラフの特徴と性質を理解する。 ◇常用対数について理解を深め、自然数の桁数を求めたり、変化する数量について応用したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
	12	5章 微分と積分[27]	1節 微分係数と導関数 1 微分係数(2) 2 導関数(3) 問題(1) 第4回考査	◇平均変化率を図形的意味も含めて理解する。関数の平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。また、グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。 ◇微分係数を関数的にとらえ、導関数を定義することができる。	
	1 2 3		2節 導関数の応用 1 接線(2) 2 関数の増減と極大・極小(3) 3 関数の最大・最小(2) 4 方程式・不等式への応用(2) 問題(1) 3節 積分 1 不定積分(2) 2 定積分(3) 3 定積分と面積(4) 問題(1) 練習問題(1) 第5回考査	◇曲線の接線の方程式を求めることができる。 ◇関数の増加・減少と導関数の値の正負の関係を考え、関数の増加・減少を調べることができる。導関数を用いて、関数の極大・極小を調べ、グラフをかきことができる。 ◇微分法を用いて関数のグラフをかき、その結果から関数の最大値・最小値を求め、具体的な事象の考察に活用できる。 ◇微分法を用いて、関数のグラフをかき、その結果を方程式の解の個数を調べることや不等式の証明に応用できる。 ◇微分法の逆演算として不定積分を導入し、多項式関数について不定積分の計算ができる。 ◇定積分の定義を理解し、その計算ができる。 ◇直線や放物線で囲まれた図形の面積を定積分により求める方法を理解し、面積を計算することができる。	<input type="checkbox"/> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査

3 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数および微分・積分の考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。
数学的な見方・考え方	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数および微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察し、表現するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。
数学的な技能	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数および微分積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
知識・理解	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数および微分積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。

4 評価の方法

定期考査、小テスト、提出物及び授業への取り組み状況により、上記4観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

まず、授業で行ったところや、教科書の内容を理解する。不明な点は授業担当者や友人に質問するなどして自分なりに解決しておく。次に、知識として定着させる。その単元の教科書の「問題」や副教材の練習問題を数多く解く。単純な問題を数多く練習することも必要である。さらに発展問題にも取り組む。時間をかけて考える習慣を身につけることも大切である。

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～6組
教科書	数学B Advanced (東京書籍)	副教材等	PRIME 数学Ⅱ+B (東京書籍)

1 学習の到達目標

数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章 数列	1節 数列 1 数列 2 等差数列	◇数列の概念および数列についての基本的な用語を理解する。 ◇等差数列について関心をもち、一般項 a_n を初項 a 、公差 d を使って表せることを理解する。 ◇等差数列の初項から第 n 項までの和の求め方に関心をもち、それが n を用いて表せることを理解する。 ◇等比数列について関心をもち、一般項 a_n を初項 a 、公差 r を使って表せることを理解する。 ◇等比数列の初項から第 n 項までの和の求め方に関心をもち、それが n を用いて表せることを理解する。 ◇記号 Σ の意味と性質を理解し、累乗の和を Σ を用いて表すことができるようにする。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
	5		3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 6 和の記号 Σ 第1回考査		
	6	7 いろいろな数列問題 2節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式 第2回考査	◇階差数列から一般項を求めたり、数列の和から一般項を求めたりすることができるようにする。 ◇数列の帰納的定義について理解し、漸化式を用いて表された数列の一般項を求めることができるようにする。		
後期	7	第2回考査			
	9	2章 ベクトル	2 数学的帰納法問題 練習問題 1節 平面上のベクトル 1 ベクトルの意味	◇数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できるようにする。 ◇平面上のベクトルの概念を理解するとともに、ベクトルに関する基本的な用語・記号を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
後期	10		2 ベクトルの加法・減法・実数倍 2 数倍 3 ベクトルの成分 第3回考査	◇ベクトルの加法・減法および実数倍について理解し、それらの演算について数の演算と同様の法則が成り立つことを確かめる。また、ベクトルの平行・分解について理解する。 ◇平面上のベクトルが2つの実数の組として表されることを理解し、そのよさを認識する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
	11		4 ベクトルの内積問題 2節 ベクトルの応用 1 位置ベクトル 2 ベクトル方程式問題 第4回考査	◇ベクトルの内積について理解し、その基本性質を理解する。 ◇位置ベクトルを理解し、平面上の点の位置を表現できるよさを認識する。 ◇平面上の直線や円を、ベクトルを用いて表せることを理解する。また、媒介変数表示についても理解し、そのよさを認識する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
	12				

1	3節 空間におけるベクトル	<p>◇空間における座標を定め、空間の点が3つの実数の組として表現できることを理解する。また、座標平面に平行な平面について考察する。</p> <p>◇平面と同様に、空間においてもベクトルを考えることができることを理解する。また、空間のベクトルについても内積を定義し、空間内のいろいろな図形の性質の考察に利用できるようにする。</p> <p>◇平面と同様に、空間においても位置ベクトルを考えることができることを理解し、内分点・外分点の位置ベクトルを求めることができるようにする。また、空間における位置ベクトルのよさを認識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
2	1 空間における座標		
3	2 空間におけるベクトル 3 位置ベクトルと空間の 3 図形 問題 練習問題 第5回考査		

3 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、数列、ベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
数学的な見方・考え方	数学的活動を通して、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的、発展的に考えたりすることなどを通して、数列、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身につけている。
数学的な技能	数学的活動を通して、数列、ベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。
知識・理解	数学的活動を通して、数列、ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。

4 評価の方法

定期考査、小テスト、提出物及び授業への取り組み状況により、上記4観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

まず、授業で行ったところや、教科書の内容を理解する。不明な点は授業担当者や友人に質問するなどして自分なりに解決しておく。次に、知識として定着させる。その単元の教科書の「問題」や副教材の練習問題を数多く解く。単純な問題を数多く練習することも必要である。さらに発展問題にも取り組む。時間をかけて考える習慣を身につけることも大切である。

令和4年度 理科「物理基礎」 シラバス

単位数	3単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～2組
教科書	改訂 高等学校 物理基礎 (第一学習社)	副教材等	センサー総合物理 (啓林館)

1 学習の到達目標

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第Ⅰ章 力と運動	1. 速度 2. 加速度	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解する。 ・物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解する。 ・速度が変化する物体の直線運動に関する実験などを行い、速度と時間の関係を見出して理解するとともに、物体が直線運動する場合の加速度を理解する。 ・物体に様々な力がはたらくことを理解するとともに、物体にはたらく力のつりあいを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・実験報告書評価 ・問題演習 ・考查得点【第1回考查】
	5	第1節 物体の運動 第2節 力のはたらきとつりあい	3. さまざまな力 4. 力の合成・分解とつりあい		
	6	7	第3節 運動の法則	5. 運動の3法則 6. 運動方程式の利用 7. 落下運動 8. 抵抗力を受ける運動	<ul style="list-style-type: none"> ・物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体にはたらく力、物体に生じる加速度の関係を見出して理解するとともに、運動の3法則を理解する。 ・物体が落下する際の運動の特徴および物体にはたらく力と運動の関係について理解する。
後期	9	第Ⅱ章 エネルギー	9. 仕事と仕事率 10. 運動エネルギー 11. 位置エネルギー 12. 力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解する。 ・力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・実験報告書評価 ・問題演習 ・考查得点【第3回考查】
	10	第2節 熱とエネルギー	13. 熱と温度 14. エネルギーの変換と保存 15. 気体の圧力と熱運動		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	11	第Ⅲ章 波動	16. 波の表し方と波の要素 17. 波の重ね合わせ 18. 波の干渉・反射・屈折・回折	・波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・実験報告書評価 ・問題演習
	12	第1節 波の性質 第2節 音波	19. 音波の性質 20. 物体の振動 21. ドップラー効果	・気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて理解する。また、弦の振動、音波の性質を理解する。	
	1	第Ⅳ章 電気	22. 静電気 23. 電流と抵抗 24. 電気エネルギー	・電気抵抗に関する実験などを行い、同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見出して理解する。また、物質によって抵抗率が異なることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・実験報告書評価 ・問題演習
2	第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場	25. 磁場 26. モーターと発電機 27. 交流と電磁波	・発電、送電および電気の利用について、基本的な仕組みを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・考查得点【第5回考查】 	
3	第3節 エネルギーとその利用	28. 太陽エネルギーと化石燃料 29. 原子力エネルギー	・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な観点から理解する。		

3 評価の観点

関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探求しようとするするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
観察・実験の技能	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。
知識・理解	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

4 評価の方法

- ・学習内容の定着（年間5回の定期考查）
- ・授業に対する取組状況（授業中の発言状況、実験報告書の内容など）
- ・「関心・意欲・態度」、 「思考・判断・表現」、 「観察・実験の技能」及び「知識・理解」の4観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

・授業の前に、教科書を一度読んでください。自分の理解できるところ、理解できないところを確認した上で授業に臨んでください。また、授業の中で疑問に思ったこと、分からなかったことはそのままにせず、小さなことでもどんどん質問してください。お互いに、物理に関する理解を深めていきましょう。

・物理基礎を理解する上で重要なことは、学習している項目が「覚えなければならないこと」なのか、あるいは「覚えずに導出すべきもの」なのかを区別しながら丁寧に学習を進めることです。意識しながら学習に取り組みましょう。

・授業の進行に応じて演習の題材を用意しますが、日頃の予習、復習の中で「センサー」等を用いて演習に取り組むようにしてください。解法の暗記になってしまうことがないように、演習の際には授業の内容の再現ができるか確認してください。

・日常生活の中で、一見複雑に感じられる身の回りの現象について、高校物理の範囲で考えることができないかという視点から事物・現象に着目してみてください。

・まずはこの1年、物理基礎の学習を楽しんでいきましょう！
ぜひ、「物理基礎」で留まらず、来年度は「物理」を履修してほしいと思います。

令和4年度 理科「化学」 シラバス

単位数	3単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～2組
教科書	改訂 化学（東京書籍）	副教材等	セミナー化学（第一学習社）

1 学習の到達目標

- ・ 化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。
- ・ 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1編 物質の状態 1章 物質の状態	1 物質の三態 2 気体・液体間の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物質の三態変化における条件を理解する。 【実験01】 パルミチン酸の融点測定 ・ 気体の圧力と三態への変化の条件を学ぶ。 【実験02】 水の減圧沸騰 	発問評価 実験レポート分析
	5	2章 気体の性質	1 気体 2 気体の状態方程式 第1回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボイルの法則・シャルルの法則の成立と活用ができる。 ・ 気体の状態方程式を理解し、実在気体と理想気体の違いを学ぶ。 【実験03】 分子量の測定 	実験レポート分析 実験レポート分析
	6	3章 溶液の性質	1 溶解 2 希薄溶液の性質 3 コロイド 第2回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溶解の仕組みと溶解度について学ぶ。 ・ 希薄溶液特有の性質について学ぶ。 ・ コロイド粒子・コロイド溶液特有の性質について学ぶ。 【実験04】 コロイド溶液の性質 	発問評価 実験レポート分析 考査得点
	9	4章 固体の構造	1 結晶 2 金属結晶の構造 3 イオン結晶の構造 4 そのほかの結晶と非結晶 第3回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結晶の種類と結晶構造について理解する。 ・ 金属結晶と結晶格子について理解する。 ・ イオン結晶の構造について理解する。 ・ 結晶構造と構成する粒子の関係について理解する。 ・ そのほかの結晶構造について学ぶ。 ・ 非晶質について学ぶ。 	発問評価 考査得点
後期	10	第2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光	1 反応熱と熱化学方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反応熱の種類について学ぶ。 ・ 熱化学方程式の書き方を理解する。 ・ 熱エネルギーの移動とヘスの法則の関係を理解する。 	発問評価 実験レポート分析

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	11	第2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 2章 電池と電気分解	2 ヘスの法則 3 光とエネルギー	【実験05】ヘスの法則 ・発光を伴う化学反応について学ぶ。 【実験06】ルミノール反応 ・酸化還元反応と電池の仕組みについて学ぶ。 ・電気分解の原理と電気エネルギーの量的関係について理解する。	発問評価 実験レポート分析 考査得点
	12		1 電池 2 電気分解 第4回考査		
	1	第3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡	反応の速さ 2 反応の速さを変える条件 3 反応のしくみ 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡の移動	・化学反応の速さと計算方法について学ぶ。 ・化学反応の速さを決める条件について学ぶ。 ・条件の変化と、化学反応の速さの関係について学ぶ。 ・化学反応の起こる条件と活性化エネルギーの関係を学ぶ。 ・可逆反応と不可逆反応の違いについて学ぶ。 ・不可逆反応と反応速度の関係を学ぶ。 ・ルシャトリエの原理について学ぶ 【実験07】化学平衡の移動 ・水溶液中の電離と化学平衡の関係について学ぶ。 ・塩の溶解と水溶液の液性の関係について学ぶ。 【実験08】緩衝溶液	発問評価
	2		1 電離平衡 2 塩の水への溶解		発問評価
	3		第5回考査		実験レポート分析 実験レポート分析 考査得点

3 評価の観点

関心・意欲・態度	○自然の事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。 ・講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つ。 ・授業で得た結果を基に発展的な興味をもって自主的活動を行う。
思考・判断・表現	○物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
観察・実験の技能	○自然の事物・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・授業内容について科学的な捉え方ができる。 ・授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる。 ・発展的な内容についても思考を展開させられる。
知識・理解	○自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・学んだ内容が関連付けて整理され定着している。 ・知識を用いて発展的な応用ができる。

4 評価の方法

「関心・意欲・態度」、 「思考・判断・表現」、 「観察・実験の技能」及び「知識・理解」の4観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

復習に重点を置きましょう。そして、授業中に行わなかった教科書の問題や問題集の問題を自分で解いてみましょう。

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 3～6組
教科書	改訂地学基礎（第一学習社）	副教材等	スクエア最新図説地学（第一学習社） ビーライン地学基礎（第一学習社）

1 学習の到達目標

<p>1. 日常生活や社会との関連を図りながら，宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。</p> <p>2. 地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い，地学的に探究する能力と態度を育てる。</p> <p>3. 地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，地学的な見方や考え方を養う。</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第1章 宇宙における地球	1. 宇宙の始まり 2. 宇宙の広がりや銀河の分布 3. 太陽の組成 4. 太陽の構造 5. 太陽の誕生と将来 6. 太陽系の構造 7. 太陽系の誕生 第1回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグバン理論に基づいて宇宙の誕生を理解する。 ・太陽のスペクトル上に見られる吸収線の位置から，太陽に存在している物質がわかることを知る。 ・太陽は核融合反応でエネルギーを生成していることを知る。 ・主系列星の太陽は，将来，赤色巨星になり，最後に白色矮星と惑星状星雲になることを知る。 ・原始太陽系星雲の内部で形成された微惑星が，衝突合体を繰り返しながら原始惑星となったことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・実験報告書評価 ・問題演習 ・考査得点 	
	5	第1節 宇宙の構成 第2節 太陽 第3節 太陽系の中の地球				
	6	第2章 活動する地球				3. 地球型惑星① 4. 地球型惑星② 5. 木星型惑星 6. 惑星・衛星以外の天体 7. 生命の惑星・地球
7	第1節 地球の姿	1. 地球の形と大きさの測定 2. 地球の形と大きさ 3. 地球内部の層構造 4. 地球の構成物質 5. プレートの運動 6. 大山脈の形成 第2回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の形や大きさについて学習する。 ・エラトステネスの方法を学び，緯度差と距離から地球の大きさを計算できるようになる。 ・地球楕円体，地球の起伏，平均海水面について理解し，知識を身に付ける。 ・地球の内部は構成物質や状態の違いから，地殻，マントル，外核，内核に分かれた層構造をしていることを理解する。 ・物質は同じだが，温度の差による粘性の違いで名称が変わることを知る。 			
9	第2節 火山活動と地震	1. 火山の分布 2. 火山の地形 3. 火山の噴火と火成岩 4. 火成岩の種類 5. 地震が発生するしくみ 6. 地震の動き 7. 地震の発生する地域	<ul style="list-style-type: none"> ・火山はプレートの運動と関連していて，プレート境界に多く分布していることを理解する。 ・火砕物や火砕流について理解する。 ・地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 ・大森公式を利用して，初期微動継続時間から震源までの距離を計算によって求めることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・実験報告書評価 ・問題演習 ・考査得点 		
後期	10	第3章 移り変わる地球	1. 地層の形成 2. 堆積岩 3. 地殻の変動 4. 変成岩 第3回考査		<ul style="list-style-type: none"> ・地層が形成される仕組みや場所について理解する。 ・地殻変動によって形成される褶曲・断層・不整合を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発問評価 ・実験報告書評価 ・問題演習 ・考査得点
		第1節 地層や岩石と地質構造				

後期	11	第2節 地球環境と生物界の変遷	<ol style="list-style-type: none"> 化石 地層の対比 地質時代とその区分 先カンブリア時代 古生代 中生代 大量絶滅 新生代 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境の変化と生命誕生の歴史について理解する。 それぞれの地質時代に見られる特徴的な化石に着目し、地球環境の遷移を論理的に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 発問評価 実験報告書評価 問題演習 考查得点
	12	第4章 大気と海洋 第1節 地球の熱収支	<ol style="list-style-type: none"> 大気の構成 大気圏の特徴 対流圏での天気の変化 太陽放射と地球放射 地球の熱平衡 大気と海洋の相互作用 	<ul style="list-style-type: none"> 大気圏の区分とその特徴を理解する。 大気の組成、大気圧力、大気圏の構造、オゾン層を理解する。 雲の形成について気温と飽和水蒸気量の関係を知り理論的に理解する。 	
	第4回考查				
	1	第2節 大気と海洋の運動	<ol style="list-style-type: none"> 緯度によるエネルギー収支 大気の大循環 高気圧と低気圧 海洋の層構造 海洋の大循環 大気と海洋の相互作用 	<ul style="list-style-type: none"> 大気の大循環は低緯度と高緯度間の熱量の平衡を保つために起こっていることを理解する。 海水の構造についても、温度の鉛直分布によって分けられていることを説明する。 海流や深層循環などの海水の運動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 発問評価 実験報告書評価 問題演習 考查得点
	2	第5章 地球の環境 第1節 地球環境の科学	<ol style="list-style-type: none"> 地球温暖化 オゾン層の破壊 エルニーニョとラニーニャ 	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果が水蒸気、二酸化炭素、メタン、フロンなどの温室効果ガスにより引き起こされていることを理解する。 環境問題を科学的な視点から考察できるようになる。 	
	3	第2節 日本の自然環境	<ol style="list-style-type: none"> 季節の変化 自然景観 気象災害と防災 地震災害と防災 火山災害と防災 	<ul style="list-style-type: none"> 気団や季節風、日本の天気の特徴を理解する。 集中豪雨や台風、土砂災害について理解する。 日本で考えられる自然災害の原因について理解し、対策を考える。 	
第5回考查					

3 評価の観点

関心・意欲・態度	地学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	地学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを言語活動を通じて表現する。
観察・実験の技能	地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを地学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
知識・理解	観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

4 評価の方法

考查点評価、ノート分析、実験観察レポート分析をもとに、上記の観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

授業中は授業に集中しましょう。授業は板書された内容をノートに写し取るだけの時間ではありません。絶えず好奇心を持ちつつ必要な口頭説明はメモを取りながら授業を受けましょう。そして、分からないところや疑問に思うところがあったらいつでも質問して下さい。

単位数	3単位	学科・年次・学級	普通科 2年 全クラス
教科書	現代保健体育 (大修館書店)	副教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)

1 学習の到達目標

<p>1 (2年次の技能) 仲間と共に協力したり、助け合ったり教えあったりしながら、その運動の持つ特性や魅力に深く触れ、積極的に技能を高めることができる。また筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法など互いに話し合う活動を行い、論理的思考を身に付けることができる。</p> <p>2 (2年次の態度) 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする意思を待ち、仲間との体力の違いに配慮し、公正に取り組もうとする積極的な意欲を高めることができる。</p> <p>3 (2年次の知識) 知識と技能を関連させて学習をし、攻防や戦術の中で具体的に計画を立て、実践し、評価する課題解決の方法を身につけることができる。</p>
--

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	A 体づくり運動	7 体ほぐしの運動 (2年次)	心と体の状態に応じて調子を整えるために運動をしたり、ひとつひとつの運動の繋がりや組み立てを大切に運動したりできる。 ・手軽に行う運動や仲間との助け合い運動などの運動例を行う。 ・大きな負担のかかりやすい部位のけがの予防運動を行う。	行動観察
5 6 7 前期		ア ゴール型 ・バスケットボール ・サッカー	防御の状況に応じたパスやドリブルなどのボール操作と仲間と連携して自陣から相手ゴール前へ侵入する攻撃やその動きに対応して空間を埋める攻防を展開することができる。 ・ボール保持者がプレイしやすい空間を創り出すために、必要な場所に留まったり、移動したりすること。 ・守備のタイミングをはずし、守備者のいないところをねらってシュートを打つこと。	行動観察
1 0 1 1 1 2 後期		イ ネット型 ・バレーボール	味方や相手の状況に応じてボールに緩急や高低をなどの変化をつけて前後左右のねらった場所に打ち分け、得点しやすい空間を作り出すことができる。 ・変化のあるサーブに対応して、面でレシーブすること。 ・ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーすること。	ワークシート分析 スキルテスト 記録計測
通年	F 武道	(1) 柔道	相手の多様な動きに応じて、基本のなる技や発展技を扱うことができる。また相手の技を切り返したり、相手の力を利用して効率よく投げたりすることができる。 ・姿勢と組み方では、相手の体格や姿勢、かける技に対応して自然体で組むこと。	行動観察 スキルテスト 記録計測

		(2) 剣道	<ul style="list-style-type: none"> ・進退動作では、自分の姿勢の安定を保ちながら体の移動をすること。 ・受け身では、相手の投げ技に応じて安定した受け身をとること。 <p>相手の多様な動きに応じて、自己の技能・体力の程度を考え最も打突しやすく、相手から効率的に有効打突をとる基本動作ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構えでは、相手の多様な動きの変化に応じた自然体で中段に構えること。 ・体さばきでは、相手の多様な動きの変化に応じて体の移動や竹刀操作を行うこと。 ・相手の面打ちを竹刀ですり上げて面を打つこと。 	
月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
8 9	D水泳	(1)泳法 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ バタフライ オ 複数の泳法で長く泳ぐ	自己に適した泳法を身に付け、その効率を高めて、泳ぐことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・プル、キック、呼吸動作のタイミングを合わせて無理のない一定のスピードで、続けて長く泳ぐこと。 ・各種目の特性や魅力を深く味わえるよう、滑らかな呼吸動作や有効なキック動作、大きな推進力を出すプル動作に着目する。 ・体を丸くして膝を胸に引き付け、抵抗の少ない姿勢で回転し、方向を変換すること。 ・これまで学習したクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4種目から2～3種目を選択し、続けて泳ぐことができる。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶことができる。 	行動観察 スキルテスト 記録計測
12	C陸上競技	ア 競争 (2) 長距離走	目標タイムを達成するペースを自己の技能とし、自ら変化のあるペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ったりすることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分で設定したペースの変化や仲間のペースの変化に応じて、スライドとピッチを切り替えて走ること。 	行動観察 記録計測
2 3	H体育理論	1 スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ア スポーツの歴史的発展と変容 イ スポーツの技術、戦術、ルールの変化 ウ オリンピックムーブメントとドーピング エ スポーツの経済的効果とスポーツ産業	スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。 ○アスポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて変容してきていること、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあることを学習する。また、諸外国に普及、発展している日本発祥のスポーツがあることを理解する。 ○イスポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていることを学習する。 ○ウ「2020年 東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、「する・みる・支えるスポーツ」中で、自らのかわり方を考える。 ○エ現代のスポーツは、用品、情報、サービス、施設などの広範な業種から構成され、経済活動に大きな影響を及ぼしていることを理解する。	提出物 小テスト

3 評価の観点

関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで計画的に運動しようとしている。公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。健康や安全に留意し、主体的に取り組もうとしている。
----------	--

思考・判断	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。 自己や仲間の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫している。
技能	身に付けた動きを高め、新たに得意技を身に付けたり、攻防や動きができる。 また、記録や技に挑戦したり、簡易化されたルール制限を次第に正規に近づけるなどして試合をしたり、発表したりする動きができる。
知識・理解	運動技能の構造と運動の学び方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方に関する基礎的な事項を理解している。 また運動やスポーツの効果的な学習の仕方や豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

4 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断、技能及び知識・理解の4つの観点から総合的に評価する。

前期：一般体育、武道、水泳で評価する。

後期：一般体育、武道、長距離走、体育理論で評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

規律・マナーを守り、怪我なく学習することが大切です。また楽しく運動することが一番です。新しい環境や新しい仲間の中で不安もあるでしょうが、一日も早く打ち解けて規律を守り、怪我なく、楽しく運動しましょう。ただ、体を動かすだけでなく、生涯を通じて運動に親しむことができるようにし、運動の仕方はもちろんのこと練習や発表の仕方、企画運営の仕方など基本的な事項も身に付けることができるように授業を行います。自分と仲間の持つ課題を見つけようとする意欲も必要です。自分自身のことはもちろん、仲間の気持ちや体の状態に目を向け、問題点や解決方法をみつけ課題解決をしていきましょう。豊かなスポーツライフを継続するために理論についても学んでいきます。服装は学校指定の体操服に記名をし、着用してください。またこまめに洗濯し、衛生面に気をつけてください。授業はチャイムと同時に始まりますので、活動場所への移動は休み時間のうちに完了させて下さい。見学者は授業前に担当者に申し出て指示を受けて下さい。また貴重品の管理をしっかりと行って下さい。

単位数	1 単位	学科・年次・学級	普通科 2年 全クラス
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館書店）

1 学習の到達目標

<p>1 我が国の疾病構造や社会の変化に対応し、健康を保持増進するためにヘルスプロモーションの考え方を理解することができる。</p> <p>2 個人生活や社会生活における健康・安全に関する事柄に興味・関心を持ち、科学的に思考・判断し、総合的にとらえることができる。</p> <p>3 自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び健康的な社会環境づくりなどが実践できるようになるための資質や能力を身につけることができる。</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	2 生涯を通じる健康	1 思春期と健康	思春期の体と心の健康・性意識の男女差などについて理解します。 健康な結婚生活を送りながら、家族計画に基づき、家庭を築いていくことを理解します。 ・性についての現代社会に氾濫する情報を整理しながら正しく理解します。	行動評価 発問評価 ワークシート分析
			2 性意識と性行動の選択		
			3 結婚生活と健康		
	5		4 妊娠・出産と健康		
			5 家族計画と人工妊娠中絶		
			第1回考査		
	6		6 加齢と健康	高齢化社会といわれる我が国が現在抱える課題と今後の取り組みについて理解します。 我が国の保健・医療制度の現状を学習し、保健制度と保健サービスの活用方法を理解します。また、医薬品の正しい使用方法・留意点について理解します。 ・高齢化社会の課題を取り上げた資料を活用し、今後の自己の在り方について深く学びます。 ・市販されている様々な医薬品を例に挙げ、その作用だけでなく販売規制等についても学習します。	行動評価 発問評価 感想文評価
		7 高齢者のための社会的取り組み			
		8 保健制度とその活用			
			9 医療制度とその活用		
			第2回考査		
	9		10 医薬品と健康		
			11 さまざまな保健活動や対策		
後期	10	3 社会生活と健康	1 大気汚染と健康	大気・水・土と我々の生活していく基盤となる環境が地球規模で汚染されている現状を学び、今後何をなすべきか考え行動できるようにします。 自然環境の保全のために、地球的視野にたって考える力を養います。 ・過去に起こった公害病・現在起こっている環境汚染を取り上げ、環境汚染の恐ろしさを理解します。 ・視聴覚教材を活用し、環境汚染に関する最新の教材を取り扱います。 食品に関する衛生活動や安全について学習します。 ・NIE（新聞記事を利用して行う）学習を取り入れて、タイムリーな話題を深く理解します。	行動評価 発問評価
			2 水質汚濁・土壌汚染と健康		
			第3回考査		
			3 健康被害の防止と環境対策		
後期	11		4 環境衛生活動のしくみと働き		ワークシート分析

12	5 食品衛生活動のしくみと働き 6 食品と環境の保健と私たち 第4回考査		
1	7 働くことと健康 8 労働災害と健康 9 健康的な職業生活 第5回考査	将来職業に就いたときに、働くことと健康についてのしくみを理解したうえで、健康を保持するために正しく行動できるようにします。 ・一年次に学んだ「自己実現」と関連させながら理解を深めます。	行動評価 発問評価 ※考査期間にノート提出
2			
3			

3 評価の観点

関心・意欲	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、積極的、意欲的に授業に参加している。
思考・判断	健康・安全について課題の設定や解決の方法を考え判断している。
知識・理解	適切な生活行動を選択し、実践すること及び、環境を改善していく努力が必要であることを理解している。 個人生活及び社会生活において、その健康や安全のための課題解決に役立つ知識を身に付けている。

4 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解の3つの観点から総合的に評価する。
考査の成績、現代高等保健体育ノートや課題レポートやその他の提出物の状況、内容のまとめ方を評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

少子化や情報化など社会の急激な変化による成育環境、生活行動の変化、国民の疾病構造の変化に関わって深刻化している心の健康、食生活、生活習慣、薬物乱用、生に関する問題について学んでいきます。自分自身はもちろん、家族や仲間などの健康課題についても目を向け、考え、心身の健康の保持増進を図るため、課題解決していけるよう取り組みましょう。
健康であることは、生きるための基本です。学習する全ての単元が重要です。また身体の成長速度や運動能力など個人差があることを踏まえた上で授業に参加して下さい。

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 3～6組 選択者
教科書	高校生の音楽2 (教育芸術社)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協力的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	ガイダンス	歌唱, 独唱	音楽Ⅱの学習方法, 内容及び評価等について理解する。 歌唱においては歌詞の理解, 歌い直しなどについて学習し, 表現の工夫や自分なりの歌い方を創り上げる。1年からの継続として, 響きのある明るい発声を更に探り, それに基づき美しいハーモニーや, 各声部の役割・協調などを理解し, 楽曲の内容に即した表現や歌い方を工夫する。	歌唱発表
	5	「セレナード」 「愛の喜び」 「カタリ・カタリ」 他			
	6	「早春賦」 「見上げてごらん夜の星を」 他	二部・三部合唱	鑑賞 年代の持つ文化的特徴を知り, その年代を生きる作曲家の個性の表出について学習し, 音楽表現のあり方や意味などについて考察する。	感想文提出
7	各年代を代表する作曲家を取り上げ鑑賞する (バッハ・モーツァルト・ベートーベン・ショパン・ストラヴィンスキーなど)	器楽	音程や音階の仕組みなどについて器楽を通して理解し, それに基づき簡単な楽曲を演奏し, その仕組みや内容を感じ得る。		
後期	10	コード・音程・音階・和音の学習 コードの仕組み, 伴奏の付け方, 演奏法	コード学習とアンサンブル	音程や音階などの基礎的内容の理解を深め, コードの仕組みや使い方の基本事項を学習する。 和音について, 旋律の仕組み, 旋律と和音の関係などについて確実な理解を得る。	
	11	「雨にぬれても」 他	コード伴奏 独唱	コードによる伴奏付けの基本を理解し, 歌い方との関連でその合わせ方, 協調のあり方を学習する。 楽曲の持つ内容や意味を理解, 更に各自の個性や特性を加味した表現を創り上げることを目指す。	グループになり, 合わせ方を工夫する
	12	「君を愛す」他			

1	「アヴェヴェルム・コルプス」 他 歌唱と器楽伴奏のアンサンブル	二部・三部合唱 歌唱と器楽伴奏のアンサンブル	発表ではお互い鑑賞し合い、様々な表現内容や方法を知り、比較しその良さや違い、難しさを理解し鑑賞する力を高める。	グループごとの発表
2	まとめ発表			
3				

3 評価の観点

知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
思考・判断・表現	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協力的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

音楽への知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に判断し評価する。
--

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

歌唱・器楽・鑑賞など幅広い学習内容で、個人・グループ・クラスでの演奏等表現形態も多様な学習である。広い視野で音楽を捉え、柔らかい心で音楽に接し、様々な体験や表現が出来るよう豊かな音楽活動に心掛けて欲しい。 何事においても積極的に取り組み、他の人との協調を大切にす。 実技を伴う教科なので、毎時間集中して取り組むなど授業時間を大切にして欲しい。

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科 2年 3～6組 選択者
教科書	高校生の美術2（日本文教出版）	副教材等	なし

1 学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	コラージュ	映像メディア コラージュ	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や社会と自己とのかかわり、自己の内面や在り方など感性を働かせて深く見つめ、写真画像の特性を生かして主題を生成し、写真画像の視覚的要素などの効果を生かして表したいイメージや伝えたい情報を写真のコラージュで表現し、創造的で心豊かな表現の能力を伸ばす。 ・生活や社会の中の課題や映像メディア表現の働きなどに目を向け、自己の表現と他者への心遣いとの調和などを考えて心豊かに主題を生成し、創意工夫して表現する意欲を高める。 ・写真がもつ写実性や記録性、特性を理解できるようにする。自然や他者、社会とのかかわりの中で共に生きることの意味などを考え、自己に問いかけながら主題を生成する。 ・感性や美的感覚を生かし、構想、構成、編集するなどして主題を掘り下げ、個性豊かに表現する。 	表現材料（写真）収集 構成・構図のプランニング 制作途中の作品 完成した作品 自己評価ワークシート 制作ワークシート
	6	美術史を学ぼう ③	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の独自の発想や構想、表現方法など、作品の特徴をとらえ、作者の意図、表現テーマやコンセプト、素材や材料の使い方、技法や技術、表現の工夫などを読み取り、それらがどのように生かされているかを考え鑑賞ワークシートにまとめる。 	鑑賞ワークシート 発言
	7		美術史	<ul style="list-style-type: none"> ・美術史上から作家を取り上げ、作品や作品制作と関連させながらレポートを作成する。（西洋美術） 	美術史レポート
	9	表現分野選択課題	油彩画 水彩画 デッサン 塑像	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や自己を幅広く多様な視点からとらえながら、自己の価値観を大切に主体的に主題を生成する。 ・広く自然や社会、他者へ目を向け、自己の美意識や価値観を基に自らの視点を明確にしなが、創造的で心豊かな表現の構想を練る。 	エスキース アイデアスケッチ 作品の下描き
後期	10	表現分野選択課題	油彩画 水彩画 デッサン 塑像	<ul style="list-style-type: none"> ・美しさ、優しさ、楽しさ、夢やあこがれ、詩情など感情をより豊かに表現することを大切に、自己の表現したい主題がよりよく表現できるように構想を深める。 ・対象の美しさや表したい感情などをより効果的に表現するための形体や色彩、構成等の諸要素を理解し、作品のイメージを追求しながら創意工夫する。 	制作途中の作品 画家調べワークシート 完成した作品 自己評価ワークシート

後期	11	美術史を学ぼう ④	鑑賞 美術史	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の作品から、作者の感じ取ったことや意図、表現の工夫などを感じ取り、鑑賞ワークシートにまとめる。 ・美術史上から作家を取り上げ、作品や作品制作と関連させながらレポートを作成する。（日本美術） 	鑑賞ワークシート 発言 美術史レポート
	12				
	1	デザイン選択課題	ポスター ピクトグラム 色彩構成 読書感想画	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの用途や機能、伝える側や見る側の気持ちなどを考え、自らの視点を明確にしなが、創造的で美しい表現を構想する。 ・平面における表現の特質、配色の効果、画材や技法による効果の違い等を理解し、作品のイメージを確かめながら創意工夫する。 ・デザインの表現は新しい技術や素材の開発に伴い革新されていく一方で、日本の伝統的な意匠やものづくりの中に新しさを見付け出したりして、材料や技法を学び、制作に生かす。 ・色彩感覚や構成力、想像力などを総合的に働かせて、形や色彩、材料などの効果を生かし、造形的に美しく構成し表現する。 ・他者の作品から、作者の感じ取ったことや意図、表現の工夫などを感じ取り、鑑賞ワークシートにまとめる。 	アイデアスケッチ 制作途中の作品 完成した作品 自己評価ワークシート 発言 鑑賞ワークシート
2					
3			鑑賞		

3 評価の観点

知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから自分を取り巻く状況についてよく考えることが大切です。 ・用具の正しい使い方を身に付け、様々な技法によって自己を表現しようとする姿勢が大切です。 ・日ごろから美術の社会的な役割についてよく考え、美術をコミュニケーションの道具として捉え、より効果的な表現方法を求める姿勢が大切です。 ・自分で用意すべき用具や材料は「しっかり準備」。他人のものは使わないようにしてください。使用した用具の後始末をき

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 3～6組 選択者
教科書	東京書籍 書道Ⅱ	副教材等	なし

1 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	漢字の書	篆書 篆書の美	篆書の歴史・特徴を理解する。楷書と比較し特徴を理解する。筆使いの違いからくる表現の違いを学ぶ。	観察 (関) 試書 (構工)
	5		古典による臨書学習 臨書と鑑賞 1. 石鼓文 2. 金文 3. 甲骨文	各古典の表現の違いを理解し、より深く用筆法を学ぶ。	試書 (構工) 作品 (技)
	6	漢字の書	隸書 隸書の美 楷書の比較	隸書の歴史・特徴を理解する。篆書と比較し特徴を理解する。字形の違いからくる表現の違いを学ぶ。	観察 (関) ワークシート (関)
後期	7	漢字の書	古典による臨書学習 臨書と鑑賞 礼器碑 敦煌漢簡 半紙5文字の創作	各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代を通して鑑賞する。 篆書・隸書の古典作品の特徴をとらえ創作する。	試書 (構工) 作品 (技) 自作手本制作 (関) 試書 (構工) 作品 (技)
	9		漢字の書	草書 草書の美	草書の歴史・特徴を理解する。
後期	10	漢字の書	楷書	唐以前の書風を学ぶ。(三国～北魏)	観察 (関) 作品 (技)

後期	11	漢字の書	半紙2分の1の創作	好きな文字を1文字選び五書体に書き分ける。	ワークシート（関） 試書（構工） 作品（技）
	12		千葉県版紙に5文字による創作	5書体の中から好きな書体を選び半紙に創作する。	ワークシート（関） 試書（構工） 作品（技）
	1	仮名の書	仮名の美 古典による臨書学習 臨書と鑑賞 関戸本古今和歌集	関戸本古今和歌集の古典学習により、仮名の用筆法・連綿を再確認する。	ワークシート（関） 試書（構工） 作品（技）
	2	漢字仮名交じりの書	散らし書き	古典学習を使い散らし書きを学ぶ。	ワークシート（関） 試書（構工） 作品（技）
	3	篆刻と刻字	篆刻・刻字作品の制作	仮名のイメージから漢字の調和を学ぶ。 篆刻・刻字の立体的な造形美を感じ、書のような表現を学ぶ。篆刻・刻字の手順を学ぶ中で、色彩等の美術的な要素を学ぶ。	ワークシート（関） 試書（構工） 作品（技） 観察（関） 作品（技） 作品（技）

3 評価の観点

書への関心・意欲・態度	書の創造的な活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的な活動に取り組もうとする。
書表現の構想と工夫	書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基本的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付けようとしている。
鑑賞の能力	日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え書の良さや美しさを創造的に味わっている。

4 評価の方法

書への関心・意欲・態度・書表現の工夫、創造的な書表現の技能、鑑賞の4観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>書道Ⅰの学習を基礎に技法の習得はもちろんですが、様々な書の活動から個性を活かし、少しでも自己表現ができるように心がけましょう。そして、自分の好きな書体を見つけましょう。</p> <p>技法の習得は古典の臨書が基礎となりますので、枚数を重ねての練習は大切です。ただし、単なる繰り返しにならないよう心がけましょう。作品制作は自己との戦いです。作品としっかり見つめ合いよりよい作品を作り上げましょう。</p> <p>授業はチャイムと同時に開始できるようにしましょう。そのために5分前には着席し墨をすりましょう。</p> <p>提出物はしっかりと提出しましょう。</p> <p>1年次と比べ1クラスの人数が多くなります。流されることなく授業に取り組みましょう。</p>

令和4年度 外国語 「コミュニケーション英語Ⅱ」 シラバス

単位数	4単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～6組
教科書	PROMINENCE English Communication II (東京書籍)	副教材等	教科書準拠ワークブック・Vintage 長文問題SKYWARD (LAND)

1 学習の到達目標

1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

2 学習の計画

○題材・内容 ▲言語材料 ◎言語活動

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	Lesson 1 The Power of Empathy	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動	○多様な価値観や文化的背景を持った他者と関係を築くために大切な共感性について学び、コミュニケーションにおける共感性の働きについて考える。 ▲S+V+O(O=if またはwhetherで始まる節) /受け身(完了形) ◎キーワードを用いながら、実験の要点を整理して口頭で説明する。身近な人に共感を示すにはどうしたらよいか考え、書く。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト
	5	Lesson 2 Come and Visit the Park in the Sky!	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動 第1回考査	○廃線を再利用して建設された空中公園(ハイライン)について学び、反対運動があったにもかかわらず、市民の協力や賛同を得て、困難を乗り越え、完成に至った過程について理解する。 ▲比較を修飾するfar/現在完了進行形 ◎本文の内容を整理して、本文の要点を書く。具体例を挙げながら、物の再利用について自分の意見を書く。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト 考査得点
	6	Lesson 3 A Window to Ancient Earth	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動 第1回プレゼンテーション	○田邊氏の生き方や、彼女が研究対象としている南極大陸の湖の生態系について知り、古代の地球生命との関係について学ぶ。 ▲S+be動詞+C(C=whether / whatなどで始まる節) /関係副詞の非制限用法 ◎田邊氏の南極大陸での発見についてキーワードを使って書く。人物を選び、その人物に対するインタビュー活動をペアで行う。 あるテーマについて個人またはペアでプレゼンテーションを行う。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト 準備状況・内容・伝え方・視覚資料等
	7	Lesson 4 Bonsai Goes Global	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動 第2回考査	○国際的に人気が高まっている日本の盆栽について学び、盆栽の国際化、多様化について理解する。 ▲倒置/独立分詞構文 ◎選んだ人物に対するインタビュー活動を行う。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト 考査得点
	9	Lesson 5 Taking the Sting Out of Jellyfish	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動	○クラゲの生態と人間との関係性について理解し、クラゲに対して知識と親近感を深める。 ▲No matter +whatなどで始まる節/完了不定詞 ◎クラゲの種類や特徴、人間との関係性について理解し、既に学習した内容について要点を整理して発表を行う。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト
後期	10	Lesson 6 Does it Spark Joy?	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動 第3回考査	○近藤麻理恵氏の片付けの原則や方法を理解し、彼女の著書が世界的なベストセラーとなった理由を考える。 ▲未来進行形/習慣を表すwould ◎近藤氏の片付け方について知り、服のたたみ方を英語で説明できる。自分の意見を、アイコンタクトやジェスチャーに注意しながら、効果的に発表することができる。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト 考査得点
	11	Lesson 7 Malala's Fight for Education	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動	○マララ・ユスフザイさんの2014年ノーベル平和賞受賞スピーチから、彼女の信念や闘いについて知り、教育の拡充や貧困など世界の問題について考える。 ▲S+V+O+C(C=過去分詞) /前置詞+関係代名詞 ◎表の数字などを適切に理解して、口頭で説明する。自分の意見を英語で書き、スピーチする。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト

	Lesson 8 Welcome to the World of Tove Jansson	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動	○「ムーミン」の作者であるトーベ・ヤンソンの生きた時代背景を理解し、作品に込められたメッセージを登場人物の言動から考える。 ▲先行詞を含んだ関係副詞/ 受け身のto不定詞 ◎「ムーミン」の登場人物の特徴や彼らの主張を理解し、スピーチを作成する。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト
12		第4回考査 第2回プレゼンテーション	あるテーマについてグループでプレゼンテーションを行う。	考査得点 準備状況・内容・伝え方・視覚資料等
1	Lesson 9 A Country of Poles and Signs	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動	○電柱やさまざまな看板、標識が立ち並ぶ日本の景観について賛否両論の意見を知り、都市の望ましい環境について主体的に考える。 ▲節を指す形式目的語のit/ 助動詞doによる動詞の強調 ◎題材に関して、賛成・反対の意見と理由を理解し、根拠をあげながら、自分の主張をわかりやすく発表する。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト
2	Lesson 10 How to Use "If"	本文内容理解 語彙・文法理解 自己表現活動	○私たちの想像力を駆り立て、思考や感情にまで大きな力をもたらすifの使用について、具体例を通して知り、自らifを使った文を作成して独自の世界を作り出せるようになることを目指す。 ▲if S were to do / if S should do ◎「ifという言葉がなかったら自分の生活はどう変わるだろうか」というテーマについて、自分の意見を伝え合う。	授業での取り組み 課題の提出状況 小テスト
3		第5回考査		考査得点

3 評価の観点

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 ○基準：「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。
外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。 ○基準：情報や考えなどについて、英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。情報や考えなどについて、英語で簡潔に書くことができる。
外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 ○基準：英語を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。英語を読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点などを捉えたりすることができる。
言語や文化についての知識・理解	英語の学習を通して、英語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。 ○基準：英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言葉の背景にある文化を理解している。

4 評価の方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力及び言語や文化についての知識・理解の4観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

4技能5領域(読むこと・書くこと・聞くこと・話すこと[発表・やりとり])をバランス良く身につけていく必要があります。授業に積極的に取り組みましょう。また、授業だけではなく、家庭学習の時間も十分にとり、予習や復習に励んでください。英語は語学なので、継続的に繰り返すことで身につきます。

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～6組
教科書	Vision Quest English Expression II Hope(啓林館)	副教材等	Vision Quest English Grammar 47 Focus on Listening(standard),ターゲット1900

1 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
 具体的な言語活動は次の通り。
 ①与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。
 ②読み手や目的に応じて、簡潔に書く。
 ③開いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1年次の復習	語彙・文法理解 自己表現活動	直説法と仮定法 wishを使った仮定法	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト
	5	Part 1 Lesson 1 伝統行事がいくつもあるのね。 Grammar Focus 1	語彙・文法理解 自己表現活動 第1回定期考査	主語の決定／見えない主語の発見／主語のit 主語になる名詞句／形式主語／無生物主語 名詞と冠詞	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト 考査得点
	6	Lesson 2 職場体験はどうだった？	語彙・文法理解 自己表現活動	自動詞と他動詞／SVO／SVOO SVC／SVOC	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト
前期	7	Lesson 3 話したいことがあるんだ。 Grammar Focus 2	語彙・文法理解 自己表現活 第2回考査	使役動詞／知覚動詞 〈動詞+O+to do〉 主語と動詞の呼応・時制の一致	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト 考査得点
	9	Lesson 4 航空管制官として働きたいんだ。	語彙・文法理解 自己表現活	「～する」／「～している」 「～した」／「～していた」	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト
後期	10	Lesson 5 そんな経験をもう一度したいわ。 Grammar Focus 3	語彙・文法理解 自己表現活動 第3回考査	義務・必要を表す助動詞／推量を表す助動詞 「もし(今)～ならば」／「もし(あの時)～だったなら」 受動態	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト 考査得点
後期	11	Lesson 6 これはカナダのバンクーバーで撮った写真なんだ	語彙・文法理解 自己表現活	名詞を前から修飾する語句 / 名詞を後ろから修飾する 関係代名詞 / 関係副詞	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト

12	Lesson 7 携帯電話は私たちの生活になくてはならないもの？ Grammar Focus 4	語彙・文法理解 自己表現活動 第4回考査	副詞・副詞句／不定詞や分詞を使った副詞句 副詞節 前置詞	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト 考査得点
1	Lesson 8 犬と猫どっちが好き？ Grammar Focus 5	語彙・文法理解 自己表現活動	原級／比較級 最上級／最上級を意味する表現	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト
2	Lesson1-Lesson8 の復習	語彙・文法理解 自己表現活動 第5回考査	否定表現	授業中の活動・発表 課題等の提出状況 小テスト 考査得点
3				

3 評価の観点

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	導入の英文や個々の例文に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。積極的にコミュニケーションをとろうとしている。
外国語表現の能力	例文を英語らしい発音で発話することができる。学んだ文法を使って、文章を書くことができる。自分のことや与えられた課題について話したり書いたりすることができる。つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。
外国語理解の能力	導入の英文に関する質問を聞き、正しい解答を選べる。パートナーの言ったことを、正しく聞き取れる。つなぎの言葉の使い方を理解している。パラグラフの構成を理解している。
言語や文化についての知識・理解	いろいろなトピックについて、内容を理解することができる。学習した文法を理解し、知識として定着している。

4 評価の方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力及び言語や文化についての知識・理解の4観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

事実や意見などを相手に伝えるためには、自分自身が何を伝えたいのかを明確にしておく必要があります。相手に分かりやすく情報を伝えるための論理展開や表現方法を学び、自分の伝えたいことを効果的に伝える能力を養います。自分の伝えたいことを正確に表現するためには、確かな文法力を磨くことです。2年生では、1年生で学んだ文法の基礎をさらに強化しましょう。そのためには反復練習が必須です。予習・復習・授業で何度も繰り返して学習しましょう。ただできた英文を暗記するだけではなく、文法の仕組みを理解しながら覚えていくのがポイントです。また、会話力の向上には、積極的に英語を使おうとする姿勢も大切です。

単位数	2単位	学科・年次・学級	普通科 2年次 1～6組
教科書	集英社出版「新家庭基礎21」	副教材等	第一学習社「最新生活ハンドブック2022」

1 学習の到達目標

<p>人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などの学びを通して、これらについての基礎的・基本的な知識・技術を習得する。また、生活様式の多様化が進む現代社会において、男女が共に主体的に生活を営み、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1編 1章 自立するには 4章 人間らしく住む	1ひとり暮らしのために必要なこと 1人間にとって住まいはなぜ必要か 2住まい選びの視点 3住まいの間取り 4健康で安全な住まい 5環境に配慮した住まい住み方	・家庭科で学ぶ内容や準備について知る。 ・現在と将来の自分の自立について考える。 ・住まい・住環境に関心を持ち健康で安全かつ快適な住生活を考える。 ・健康で安全な住まい・住まい方をするするために必要な基礎的・基本的な知識を身につける。 ・住まいの機能を理解し適切な住まいの選択ができる。 ・環境や安全に配慮した住まいについて考えを深める。	授業評価 ファイル提出 調理基礎技能 第2回定期考査 ホームプロジェクトの提出
	5				
	6	1編 5章 消費社会を生きる	1私たちがとりまく消費生活 2情報化のなかでの消費生活 3自立した生活に必要なお金の管理 4「商品を買う」とは 5消費の際に巻き込まれるトラブル 6トラブルに立ち向かう7消費者としての立ち方	・消費生活について関心を持ち、適切な意志決定や消費行動について考える。 ・家庭経済と国民経済の関わりについて基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・消費生活の現状と消費者の権利、責任について理解する。 ・消費生活の問題と課題を考え、その解決に必要な知識を身に付ける。 ・環境負荷の少ない消費生活についての思考を深める	
	7	2編 1章 多様化した社会を生きる	1家族はどう変わってきたか 2家族をめぐる課題と法律 3多様な生き方の保障 4多様な生き方・パートナシップの保障 5生活時間と仕事の現状と 第2回考査	・家族・家庭生活のあり方と社会的背景を歴史的な経過から考える。 ・男女共同参画・ワークライフバランスをふまえた家事や職業労働のあり方について考える。 ・現代の家族やライフスタイルをめぐる問題、家族法、ワークルールについて基礎的・基本的な知識を身に付ける。	
	9	2編 1章 多様化した社会を生きる	1家族はどう変わってきたか 2家族をめぐる課題と法律 3多様な生き方の保障 4多様な生き方・パートナシップの保障 5生活時間と仕事の現状と課題	・家族・家庭生活のあり方と社会的背景を歴史的な経過から考える。 ・男女共同参画・ワークライフバランスをふまえた家事や職業労働のあり方について考える。 ・現代の家族やライフスタイルをめぐる問題、家族法、ワークルールについて基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・多様な生き方を尊重し、男女が協力して社会を築くという考え方を身に付ける。	
後期	10	1編 2章 楽しく安全に食べる	1 からだどこの健康をつくる食生活 2 どれだけの栄養が必要か・栄養素のはたらき 3 食品を扱う際に注意する点・食の安全 4 食品を扱う際に注意する点と食事づくりのポイント * 調理実習 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・栄養や食品に関心を持ち、自己の食生活を振り返り健康で安全な食生活を考える。 ・栄養や食品の性質についての知識を習得する。 ・食品の保存、食中毒、食品添加物等の食品の選択にかかわる基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・栄養、安全性、環境などの多様な視点を持ち現代の食生活の問題や課題を見出し、思考を深める。 ・食品の栄養的特質と調理上の性質をふまえた調理の基本的な技能を身に付ける。 ・自分の生活の中から課題を見つけ、自ら解決する方法を模索し実践できる。また、その経過をまとめ発表できる。	

後期	11	1編 3章 選んで着る	1何を着ているか 2衣服でこんなトラブル 3衣服は何でできている 4洗濯・手入れを考える 5衣服はどこからどこへ被服製作	<ul style="list-style-type: none"> 被服材料の性能などに関心を持ち、健康で快適な着装のために必要な知識や技能を習得する。 衣服の機能を理解し被服材料や管理についての基礎的・基本的な知識を身に付ける。 資源の有効利用の観点から衣生活をとらえ、環境や安全などに関わる問題点や課題を見いだす。あわせて、持続可能な衣生活についての考えを深める。 	授業評価 ファイル提出 被服製作基礎技能 第5定期考査 ホームプロジェクト の提出
	12				
	1	2編 2章 子どもと生きる	6子どもが発達するとは 7子どもの生活で気をつけたいことは 8子どもにとっての遊びとは 2子どもが育つ環境はどうなっている 3子どもの育ちを支える場とは 4子どもはどのような権利を持っている 5子どもを育てるのにどのような支援がある	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活や発達段階を理解する。 子どもの心身の発達と生活、親の役割、子育て支援などについての基礎的・基本的な知識を身に付ける。 子どもや子育てに関心を持ち、子どもを支える社会の一人として、または将来の親として子どもの健やかな成長について考える 子どもを取り巻く現状を理解し、子育てに関する問題や課題について知り、解決方法を考える。 	
2	3編 3章 支えあい・共に生きる	1いのちと暮らしを守るには 2支えあいのしくみはどうなっているのか 3高齢者とそれを支えるしくみ 4貧困とそれを支えるしくみ 5障がい者の現状とそれを支えるしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会や貧困・障がいについて考える。 高齢者・障がい、貧困の現状、課題と福祉制度について基礎的・基本的な知識を身に付ける。 生涯を通じた、社会保障制度の必要性について考えを深める。 		
			第5回考査		

3 評価の観点

関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について 関心を持ちその充実向上を目指して主体的に取り組む意欲と実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。
技 能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。
知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解して家庭や地域の生活を充実向上させるために必要な基礎的・基本的知識を身につけている。

4 評価の方法

実験・実習への関心、意欲等の参加態度、提出された作品、課題やレポート、授業中の発言内容等について上記の4つの評価の観点から総合的に判断する。定期考査は第2回・第5回の2回実施し、100点満点で実施する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

「生活する」ことは全ての基本になり、自分が社会や家庭の中で大切な役割を担っていることを意識しましょう。また自立した生活を送ることを目標として、実験・実習には積極的に参加し、地域の伝統・文化にも関心を持ちながら、知識や技術を身に付けるとよいです。

また調理実習は通年で行います。実習時の服装については安全を考えしっかりと準備して下さい。

いろいろな問題を自分のこととして考えを深め、まとめ、伝達および表現することを楽しみ工夫してプリントを整理しましょう。

さらに実践力を高めるために積極的にホームプロジェクトに参加発表しましょう。

令和4年度 「教員基礎」 シラバス

単位数	1単位	学科・年次・学級	普通科 2年 全組 選択者
教科書	教員を目指そう！	副教材等	なるにはブックシリーズ

1 学習の到達目標

将来、教員など教育関係の仕事に携わりたいと考えている生徒を対象に、広く教育や教職についての理解を深める学習や実習を行うとともに、子ども理解の基礎となる学習活動、及び3年次の「教員基礎課題研究」の学習の土台となるコミュニケーション能力や思考力を高める学習活動を行う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・ガイダンス	将来の希望を語る	90秒スピーチ	スピーチ原稿
	5	・教員になるには (連携大学による 集中講義) ・日本の教育のよさと課題 (連携大学による)	教員になるには、 どのような学習が必要か	連携大学等による集中講義 (千葉大学・敬愛大学)	感想文等
	6	・教職体験実習について ・授業作りの基礎	オリエンテーション及び 実習校調査 教育実習とは	実習校等を調査する 連携大学等による集中講義 (千葉大学・敬愛大学)	感想文等
	7	・教職体験実習について	実習校調査 (調査)	実習校の調整	
	9	教職体験実習に向けて ・教職の魅力について考える (集中講義)	実習校確定 実習についての準備 教職体験実習に向けて	実習校を確定する 実習の最終確認 連携大学等による集中講義 (千葉大学)	感想文等
後期	10	・教職体験実習 9/26(月)～ 10/ 7(金)の内3日間 ・教職体験実習 事後指導	各実習校にて実習実施 事後指導 (1)	各実習校にて実習を実施する お礼の手紙の指導	実習日誌 感想文等
	11	・教職体験実習 事後指導	事後指導 (2) 事後指導 (3)	テーマを決めてのブレインストーミング 実習日誌等の提出	実習日誌 感想文等

3 評価の観点

関心・意欲・態度	教育関係に関心を持ち,集中講義時に,積極的に質問をしようとする。
表現の能力	関心のあることについて質問や応答ができ,情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。
資料活用の技能・表現	感情や情報,意見を伝えるために準備した原稿や資料を効果的に活用する。
知識・理解	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどをまとめ,発表されたものを理解する。

4 評価の方法

授業等への取り組みや提出物等により,総合的に記述で評価します。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

・連携大学による集中講義
年間10時間実施します。内容については以下の3点です。
1 教育の重要性 2 教育の役割 3 教育の仕事内容

・教職体験実習
教育現場にて,上記3点について体験実習を3日間実施する。自分の卒業した小学校にて実施する。

連携大学による集中講義の際には,前もって疑問点などを持って聞くようにする。また,積極的に大学教授に質問をする。

教職体験実習では,自分なりの課題を持って臨むようにする。また,事前に実施する事前学習の内容をしっかりと確認した上で実習にあたる。